

令和 6 年 6 月 28 日現在

機関番号：38001

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20H01229

研究課題名(和文) 近現代東アジアにおける「健康観」形成の比較史研究

研究課題名(英文) Comparative Historical Studies on Health Views in Modern East Asia

研究代表者

市川 智生 (ICHIKAWA, TOMOO)

沖縄国際大学・総合文化学部・教授

研究者番号：30508875

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,870,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、近代東アジアにおいて「健康」とされる心身の状態がどのようなものであったのかについて、地域による文化的相違や社会経済的相違を踏まえて、その歴史の変遷の検討を行った。主な研究対象を日本、中国、朝鮮とした。

日本に関しては、養生書の形成、尿尿処理、公衆衛生看護、乳幼児の表彰などの分析を通して、健康観の比較を実施した。また、中国に関しては上海および天津をフィールドとして、小学校教科書における健康および衛生の記述の分析、栄養補助食品の広告、栄養学の進展などについて研究を実施した。朝鮮については、植民地の天然痘の流行を事例に国民保健との関連を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究が行った東アジアにおける健康観は、伝統医学の継承と19世紀後半の近代化という共通した現象をもちながら、感染症流行時の対応やし尿処理のあり方をめぐっては、国・地域により相違がはっきりと見られることが明らかとなった。これは、どのような状態を健康とみなすのかという点においても、当然のことながら東アジア域内における差異があることを意味する。COVID-19流行時におけるマスクの着用や隔離のあり方に関する国・地域間の相違といった現代社会問題群へと継承されると考えられ、本研究は歴史事象を分析することで、現代的課題を検証する材料を提供することができた。

研究成果の概要(英文)：This research has examined the historical changes in the physical and mental conditions that were considered "healthy" in modern East Asia, through regional cultural and socio-economic differences. The main research targets were Japan, China, and Korea. Regarding Japan, we conducted a comparison of health views through analysis of the establishment of Yojo texts, human waste disposal, public health nursing, and awards for infants and young children. Regarding China, we conducted research in Shanghai and Tianjin, including analysis of descriptions of health and hygiene in elementary school textbooks, advertisements for nutritional supplements, and progress in nutrition science. Regarding Korea, the relationship with national health was clarified using the example of the smallpox epidemic in the colony.

研究分野：医療社会史

キーワード：養生 健康 衛生 疾病 東アジア

1. 研究開始当初の背景

現代は、健康であることに高い価値がおかれ、喧伝されている時代である。日本で2002年に「健康増進法」が制定され、健康の向上に努めることが国民の義務とされたことは記憶に新しい。世界保健機関(WHO)が1947年に制定した憲章は、健康を「病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態」としている(日本WHO協会による日本語訳)。しかし、この定義に対して、個人的目標としての意味合いが強く、そもそも、どのような状態を健康だと認識するのか、すなわち「健康観」の多様性をこそ検討すべきだという指摘がなされている(波平恵美子「多様化する世界における「健康観」再考」『理学療法学』31(8)、2004年)。この点、1998年にWHOで健康と疾病の関係が固定的なものではないという観点から、健康を「動的な状態」(dynamic state)とする改正案が議論されたことは注目に値する。

これまで、保健医療に関する歴史研究は、感染症を中心とした疾病のコントロールと社会変容の關係に着目してきた。特に、前近代から近代・現代へと政治制度および社会経済が転換する過程を対象として、近代医療や公衆衛生の導入のあり方、伝統医療の役割、社会各層の政策への同調・葛藤などが研究課題とされてきた。たとえば、見市雅俊ほか編『疾病・開発・帝国医療：アジアにおける病気と医療の歴史学』(東京大学出版会、2001年)は、日本におけるこの分野の代表的な研究成果といってよい。

感染症の克服の先にある(あるいは前提であるはずの)無病や長寿に対する認識について、これまでの歴史学研究はほとんど検討の対象としていない。とりわけ、急性感染症の流行のような非常事態ではなく、日々の生活の中で、健康とされる状態がどのようなものであり、地域や時代によってどのような相違・変化があったのかは、十分な検討がなされていない。医療政策や衛生事業の軌跡を検討するためには、それを受容する人々の行動の背後にある、健康観や身体観について議論を深める必要があるだろう。

一方、人類生態学や医療人類学研究では、アフリカ諸国や東南アジアなどをフィールドとして、伝統社会の健康問題について検討が進められてきた。研究する側でなく現地集団にとって、何が健康なのかを考えるべきだとの指摘(鈴木継美『人類生態学と健康』篠原出版、1989年)や、健康をめぐる文化的・宗教的多様性についての視角(M. Winkelmann, *Culture and Health: Applying Medical Anthropology*, San Francisco: Jossey-Bass, 2008)は、近代東アジアにおける「健康観」を考える際にも示唆的である。すなわち、ある国のある人間集団や個人が「健康」だと認識しているその内容は、国・地域、民族、時代などから様々な影響を受けているという点で共通しているからである。

また、健康をどのように認識し、それをどのような方法で達成するのかという点については、公衆衛生学や保健学など、医学関連領域が主体となって研究を進めてきた。しかし、そこでは、各種の身体データをベースにした「健康」がアプリアリな共通認識とされる傾向にあり、「健康」とは何かという点に踏み込むことは少ないように思われる。そのため、感染症や生活習慣病を予防・克服した状態を「健康」と認識し、実践のためのデータ蓄積という傾向が強い。しかし、保健医療の実践において俎上に載せられる「健康観」が、どのような歴史的経緯をたどって成立しているのか、人文科学的な視点から考察を深めることは、「健康」と、社会格差や地域格差などの社会経済面との關係を考

える上で必要なはずである。

2．研究の目的

本研究の目的は、近代東アジアにおいて「健康」とされる心身の状態がどのようなものであったのかについて、地域による文化的相違や社会経済的相違を踏まえて、その歴史の変遷を解明することである。そして、現代社会にそれがどのように継承されているのかを明らかにする。中国、台湾、朝鮮、日本を取り上げるのは、古代以来継承されてきた文化的・社会経済的交流に加えて、近代化の過程においても、相互に深い関係にあったからである。

医学史研究では、日本と中国をめぐる漢籍研究などにみられるように、海外交流が強く意識されてきた。しかし、実践された医療の歴史に関しては、特定の国や地域に限定した議論となる傾向が強い。そこで、本研究では「健康観」が複数の地域でどのように影響しあっていたのかという点に着目する。具体的には、中国、台湾、日本、朝鮮において、健康とされる状態がどのように定義されてきたのかを歴史的に検証し、地域的にも時代的にも個別に考えられてきた「健康観」の問題について、東アジアにおける相互の共通点と相違点を明らかにする。もちろん、直接の研究の対象は東アジア各地域であるが、近代化の過程におけるドイツ、イギリス、アメリカなど、欧米諸国の「健康観」からの影響もまた重要な論点である。

中国に関しては地域による差異が大きいと、上海および天津を研究対象として「健康観」の具体的な解明に努める。中国伝統社会と欧米からの価値観が混在する両地は、研究フィールドとして最適である。

3．研究の方法

東アジア各地域の「健康観」を検証するために、歴史資料の調査・収集を行う。保健医療関係の一次史料（公文書、私文書）、雑誌・新聞資料、各種の調査報告や統計、教科書・パンフレット・小説・日記などが対象である。また、研究代表者および分担者はこれまで感染症や寄生虫症の歴史研究に従事しており、その際に利用した疾病対策の歴史資料を、「健康観」を捉えるための情報源として再検証することも重要な作業である。

収集した歴史資料をもとに、中国、台湾、朝鮮、日本における「健康観」を構成する要素の分析と比較を行う。社会経済、政治制度、文化的要素、自然環境などの諸要件を踏まえて文献資料を分析し、どのような「健康観」が形成され、変化したのかを検討する。

4．研究成果

本研究では主として、東アジア各地の健康観の比較を行った。まず、近世期の日本を対象とする研究では、通俗養生書である『養生問対』の分析を通して、情報を提供する側と受容する側の双方によって健康の自発的管理が形成されていく事例を明らかにした。また、貝原益軒『養生訓』をはじめとする多くの養生書が睡眠について言及しており、近世における養生と睡眠が、健康の維持・向上において不可分の問題であることが示唆された。

明治以後の日本を対象とした研究では、日本における尿尿処理および下水整備について、行政側だけでなく地域住民の認識の相克を検討対象とした。肥料としての価値を持つ尿尿が、財政面での制約や尿尿に対する認識変化を経て、最終的に下水処理へと帰結したのである。この問題は、戦後に寄生虫症対策が本格化する過程とも重なっている。沖縄では琉球政府による寄生虫ゼロ作戦が1960年代以後に実施されたが、これは他県が寄生虫病予防法に

よる公費補助が行われるなか、法的地位を異にする沖縄での独自の動きとしてとらえることができる。

戦後占領期には、アメリカから多くの公衆衛生担当者が来日し、健康観にも大きな影響をあたえた。公衆衛生福祉局(GHQ/PHW)の担当者たちは、児童の健康保護が日本の再建に貢献するとの認識のもと、専門化による各分野での指導を展開した。沖縄では看護アドバイザーとして着任したワニータ・ワタワースおよびジョセフィン・ケイザーの役割が特に注目される。本研究では、両者の未刊行資料をアメリカで調査・収集し、彼女らが受けた看護教育やアメリカにおけるキャリア形成が、医師が不足し看護師・保健師中心となった戦後沖縄の公衆衛生対策に寄与したことを明らかにした。

また、戦後沖縄の乳幼児表彰をめぐる歴史分析を実施した。1951(昭和26)年から1971(同46)年まで開催された「全琉赤ちゃんコンクール」は、読売新聞社・厚生省主催「全日本赤ちゃんコンクール」を模倣した、満1歳の乳幼児向けのメディアイベントだった。当初は育児知識の普及と育児環境の向上を目的とし、母親への啓発に力点があったが、のちには「健康な赤ちゃんはお母さんの健全な、そして正しい育児知識から」とのスローガンのもと、厳格な審査基準によって沖縄一の男女を一名づつを表彰するという形へ変化していった。その際、人工栄養(粉ミルク)の利用による早期に離乳が奨励されたことは注目に値する。「離乳基本案」の考案者として知られる遠城寺宗徳(1900-1978、九州大学医学部教授)が講演に招へいされていることから、当時科学的ないしは合理的とされた育児研究の成果を取り入れつつ、母親の育児知識を深め、育児環境を改善させる場として、このコンクールは機能したと考えられる。

近代中国に関する分析では、天津の小学校で使用された教科書での健康および衛生関連の記述に注目した。西洋化を志向する文脈で、健康と衛生関連の記載を確認することができるという点では日本と同様であるが、伝統的な養生と近代的な健康・衛生が同居していることに特徴がある。また、小学校の副読本には、茶やコーヒーの飲用を批判する記述が多く確認できる。これは、カフェインやタンニンなど、成分が解明されていく過程で、児童の健康を阻害する存在として喫茶習慣が再認識されていたことを示している。

また、近代期上海については、衛生補助食品の広告の分析を通して、伝統的な身体観と科学的な知識が混在しており、そこに、上海のひとびとが受容していた健康観の存在が示唆された。食品による栄養摂取については、1920年に日本で国立栄養学研究所が設置され、佐伯矩らによる研究が本格化した。その過程で、日本からの農業移民の送出を背景として、中国大陆における食習慣と栄養学の研究が進展していったと考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 平体由美	4. 巻 26
2. 論文標題 南部急情病と公衆衛生的介入：二〇世紀初頭の病をめぐる生態系	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 フォークナー	6. 最初と最後の頁 10, 24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Seto Junji, Aoki Yoko, Komabayashi Kenichi, Yamada Keiko, Ishikawa Hitoshi, Ichikawa Tomoo, Ahiko Tadayuki, Mizuta Katsumi	4. 巻 15
2. 論文標題 Measles Outbreak Response Activity in Japan, and a Discussion for a Possible Strategy of Outbreak Response Using Cycle Threshold Values of Real-Time Reverse Transcription PCR for Measles Virus in Measles Elimination Settings	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Viruses	6. 最初と最後の頁 171 ~ 171
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/v15010171	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 市川智生	4. 巻 2022(11)
2. 論文標題 明治期日本の海港検疫をめぐる政治外交	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 年報政治学	6. 最初と最後の頁 98, 121
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 INOUE Hiroki	4. 巻 80
2. 論文標題 Accumulating Local Medical Knowledge through Medical Missionary Work and Medical Reports: Wallace Taylor and Parasitology in Late 19th-Century Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko	6. 最初と最後の頁 61, 78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上弘樹	4. 巻 なし
2. 論文標題 寄生虫病と社会	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本医史学会編『医学史事典』丸善出版	6. 最初と最後の頁 672,673
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上弘樹	4. 巻 なし
2. 論文標題 植民地医学・帝国医療 (東アジア)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本医史学会編『医学史事典』丸善出版	6. 最初と最後の頁 730,731
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福土由紀	4. 巻 なし
2. 論文標題 20世紀50年代中国農村医療保健体系的引進：以雲南大理専区為例	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 集体化時代の中国：日中共同研究	6. 最初と最後の頁 403,426
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福土由紀	4. 巻 857
2. 論文標題 肺ベスト流行下の大連	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 75,87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 市川智生, 井上弘樹	4. 巻 なし
2. 論文標題 寄生虫対策をめぐる歴史学: 20世紀後半の日本と韓国	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 伝染病と歴史: 第21回日韓歴史家会議報告書	6. 最初と最後の頁 108,119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平体由美	4. 巻 56
2. 論文標題 公衆衛生の担い手 ロックフェラー財団国際保健部と農村部公衆衛生1900?1932	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アメリカ研究	6. 最初と最後の頁 49~68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11380/americanreview.56.0_49	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 星野高德	4. 巻 87
2. 論文標題 戦後日本における尿尿処理政策の変容	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 社会経済史学	6. 最初と最後の頁 171~195
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20624/sehs.87.2_171	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 市川智生	4. 巻 59
2. 論文標題 開港場横浜における感染症の歴史: 1877年のアジア・コレラ流行の事例から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 郷土神奈川	6. 最初と最後の頁 2,19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 市川智生	4. 巻 71(1)
2. 論文標題 感染症と地域経済の歴史：明治後期の長野県における「赤痢病ノ養蚕ニ及ホス関係」をめぐって	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 エコノミア	6. 最初と最後の頁 19,32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Wataru Iijima, Hiroki Inoue, Tomoo Ichikawa	4. 巻 49(9)
2. 論文標題 Introducing activities of the Archives of Infectious Diseases History (AIDH) project: Historical epidemiology	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Tropical Medicine and Health	6. 最初と最後の頁 1,10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s41182-020-00296-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 市川智生	4. 巻 351
2. 論文標題 明治日本の海港検疫と外国人居留地における感染症対策	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 都市計画	6. 最初と最後の頁 66,67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件(うち招待講演 1件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 市川智生
2. 発表標題 感染症アーカイブスと琉球沖縄史における感染症
3. 学会等名 第54回 ビブリオシンポジウム(沖縄)(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 ICHIKAWA Tomoo
2. 発表標題 Infant Health in Postwar Okinawa : The History of the "Baby Contest"
3. 学会等名 International Conference "Modernity and Health", Yonsei University, Republic of Korea
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 ICHIKAWA Tomoo
2. 発表標題 History of lymphatic filariasis control in rural island community: Nagasaki in 1960s
3. 学会等名 第91回日本寄生虫学会大会(帯広)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 福土由紀
2. 発表標題 東アジアにおける感染症と公衆衛生の歴史
3. 学会等名 山川歴史講座「公衆衛生と感染症を歴史的に考える」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 FUKUSHI Yuki
2. 発表標題 Nutrition and Health in Modern China: Focusing on the Introduction of Vitamin Knowledge
3. 学会等名 International Conference "Modernity and Health", Yonsei University, Republic of Korea
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 INOUE Hiroki
2. 発表標題 Lymphatic filariasis control in daily lives: residents in Misaki town, Ehime Prefecture during 1950s-1960s
3. 学会等名 第91回日本寄生虫学会大会（帯広）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 ZHAO Jing
2. 発表標題 The Representation of Bedding in Pre-modern Japanese Health Care Publications (Yojosho)
3. 学会等名 International Conference "Modernity and Health", Yonsei University, Republic of Korea
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 福土由紀
2. 発表標題 健康の歴史研究の試み
3. 学会等名 第86回日本健康学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 井上弘樹
2. 発表標題 腸管寄生虫症対策と1960年代の沖縄：日本寄生虫予防会との関わりから
3. 学会等名 琉球沖縄歴史学会2021年度シンポジウム「疾病と健康から見た琉球沖縄史」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 INOUE Hiroki
2. 発表標題 Making multi-layered connections between local and international medical knowledge: Wallace Taylor and an endemic disease in Japan
3. 学会等名 The Sixth Biennial Conference of East Asian Environmental History
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 星野高德
2. 発表標題 戦前期大阪市における尿尿処理政策の変容 関一の衛生思想を中心に
3. 学会等名 日本経済思想史学会2021年度第1回例会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 星野高德
2. 発表標題 戦前～戦後日本における尿尿処理の変容 汲取処理から下水処理への転換
3. 学会等名 経済発展研究会（一橋大学経済研究所）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 市川智生
2. 発表標題 戦後沖縄の乳幼児の健康 「赤ちゃんコンクール」の目指したもの
3. 学会等名 琉球沖縄歴史学会 2021年度シンポジウム「疾病と健康から見た琉球沖縄史」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 市川智生
2. 発表標題 19世紀後半日本における感染症対策と開港場
3. 学会等名 第65回SGRA-V Forum / 第5回「日本・中国・韓国における国史たちの対話の可能性」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 市川智生, 井上弘樹
2. 発表標題 寄生虫対策をめぐる歴史学：20世紀後半の日本と韓国
3. 学会等名 第21回日韓歴史家会議「伝染病と歴史」
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 桜井 愛子、平体 由美	4. 発行年 2022年
2. 出版社 小鳥遊書房	5. 総ページ数 308
3. 書名 社会科学からみるSDGs	

1. 著者名 福士 由紀、市川 智生、アレクサンダー R ベイ、金 穎穂	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 296
3. 書名 暮らしのなかの健康と疾病	

1. 著者名 福士 由紀、市川 智生、アレクサンダー R ベイ、金 穎穂	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 296
3. 書名 暮らしのなかの健康と疾病	

1. 著者名 秋道 智彌、角南 篤	4. 発行年 2021年
2. 出版社 西日本出版社	5. 総ページ数 240
3. 書名 海とヒトの関係学 疫病と海	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	福士 由紀 (FUKUSHI YUKI) (60581288)	東京都立大学・人文科学研究科・教授 (22604)	
研究分担者	平体 由美 (HIRATAI YUMI) (90275107)	東洋英和女学院大学・国際社会学部・教授 (32718)	
研究分担者	星野 高德 (HOSHINO TAKANORI) (00749260)	琉球大学・国際地域創造学部・准教授 (18001)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	戸部 健 (TOBE KEN) (20515407)	静岡大学・人文社会科学部・教授 (13801)	
研究分担者	前田 勇樹 (MAEDA YUKI) (00867731)	沖縄県立芸術大学・芸術文化研究所・研究員 (28001)	
研究分担者	井上 弘樹 (INOUE HIROKI) (40868527)	東京医科大学・医学部・講師 (32645)	
研究分担者	趙 菁 (ZHAO JING) (50345641)	金沢大学・外国語教育系・教授 (13301)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	キム ヨンス (KIM YONSOO)		
研究協力者	アレクサンダー ベイ (Bay Alexander)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------